

林業活性化とエネルギーの地産地消を目指す
グリーン発電大分天瀬発電所＝日田市天瀬町



木質バイオマス発電

農山漁村再生可能エネルギー法
地域への利益還元など農山漁村の活性化につながる再生エネルギー発電施設の整備を促す一方、無計画な施設整備による農林地の喪失を防ぐため制定された。

安定運営へ「お墨付き」

日田市が計画認定

木質バイオマス発電事業のグリーン発電大分(日田市)が、日田市から農山漁村再生可能エネルギー法に基づく設備整備計画の認定を受けた。山林未利用材を燃料に使うなど、基幹産業の林業活性化に寄与する事業は、地元自治体の「お墨付き」でさらに安定した運営が可能になる。地域の経済循環を生み出す再生エネの特徴を体現するモデル施設として、役割が増していく。

再生可能エネルギー法に「側面的な支援を受けられ基づく認定は真内初。認定。木質バイオマス発電は、により、同社は行政や地域再生エネ電力の供給が過剰

になった時に出力を抑制される対象となっているが、認定によって同社は抑制を受けず営業運転を継続できる権利も得た。
発電所(出力5700kw)は市内天瀬町にあり、2013年に運転を始めた。経済価値が低く山林に放置される曲がり材などの未利用材を山林所有者から購入して燃料に使用。山林は放置が減って再造林がしやすくなる。



認定書を受け取ったグリーン発電大分の森山和浩代表取締役(左)と原田啓介市長＝25日、日田市役所

なるため、持続的な森づくりへの寄与も期待されている。木質バイオマス100%のクリーンな電力は地元

向けにも販売。焼却灰を肥料にする研究も進めている。地域の木材を活用することで、低迷する林業の底上げに挑んでいる。
日田市役所で25日、原田啓介市長がグリーン発電大分の森山和浩代表取締役認定書(7月22日付)を交付した。森山氏は「林業に加えて農業でも地元にとって貢献できるような、今後も努力していきたい」、原田市長は「新しい地産地消のエネルギーとして期待している。日田のブランドとして一緒に協力していきたい」と話した。(糸永健太郎、刀根徹朗)

8月26日 (金曜日)

きょうの天気

午前 午後 夜



中部 降水確率 20% 気温 26-36℃



南部 降水確率 20% 気温 25-33℃



北部 降水確率 30% 気温 24-34℃



西部 降水確率 40% 気温 24-37℃

(詳しい天気は3面に)

紙面へのご意見
お問い合わせ
情報のご提供

《読者応答室》
☎097-538-9640
(平日9:30~16:30)

大分合同新聞

朝刊

創刊1886年(明治19年)
大分合同新聞社
〒870-8605 大分市府内町3-9-15
代表 ☎097-536-2121
Eメール info@oita-press.co.jp
©大分合同新聞社2016
朝夕刊 完全連続紙

創業 昭和六年 **まるみや**
は出し料理・お弁当
寿司・オードブル
ご予約・カタログ請求はコチラ
TEL 097-536-3348
SEARCH まるみや 大分

1分で分かる きょうの紙面